

プレスリリース<別紙>

持続可能な日本を創るためのアンケート 調査結果

“今の日本は持続可能だと思わない”78% 持続可能な日本を創るのは市民一人一人の“意志”

ジャパン・フォー・サステナビリティ(JFS)は、私たち市民が、日本の持続可能性についてどのように捉え、持続可能な日本を創るために何が重要と考えているのかを探るためのアンケート調査を実施しました。回答者は20代以下が6割を占めており、調査結果は次世代を担う若者の意識を大きく反映しています。

調査概要】

調査方法 : JFSが主催するセミナー、JFSスタッフの講演などへの参加者に配布 (主に首都圏)

有効回答 : 男女 347人

(年代内訳)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代~	不明
	50人	162人	39人	26人	25人	13人	4人	28人

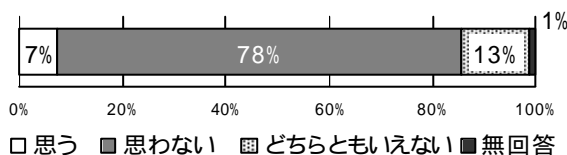
調査期間 2003年12月~2005年3月

このアンケート調査では、「持続可能」を、「現行世代が将来世代を犠牲にすることなく充足した生活をおくれること」と定義して質問しました。

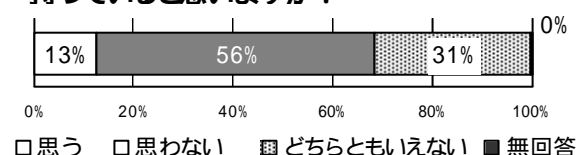
調査結果】

1. 8割の人が、「今の日本は持続可能だと思わない」と答え、半数以上の人々が、「日本には持続可能な社会へのビジョンがない」と考えている。

Q1 あなたは今の日本は持続可能だと思いますか？

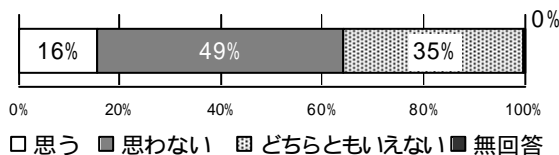


Q2 日本は持続可能な社会へのビジョンを持っていますか？

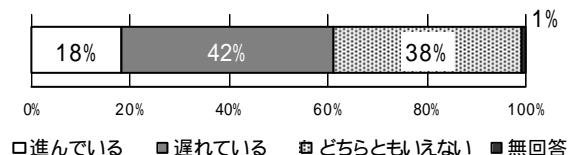


2. 世界の持続可能性についても、半数の人が「持続可能に向かっていない」と思っていない。その中において国際的にみても「日本の取り組みは遅れている」と考える人が4割にのぼり、持続可能な社会の建設において「日本は国際社会でリーダーシップを発揮している」と思う人は、わずか7%である。

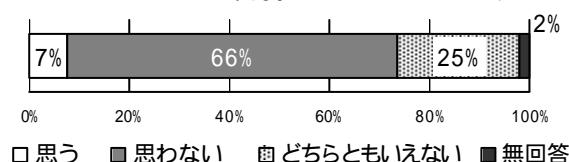
Q3 世界は持続可能な方向に向かっていてと思いますか？



Q4 日本の持続可能な社会への取り組みは、国際的にどの程度のレベルにあると思いますか？



Q5 日本は持続可能な社会の建設に向けて、国際社会でリーダーシップを発揮していると思いますか？



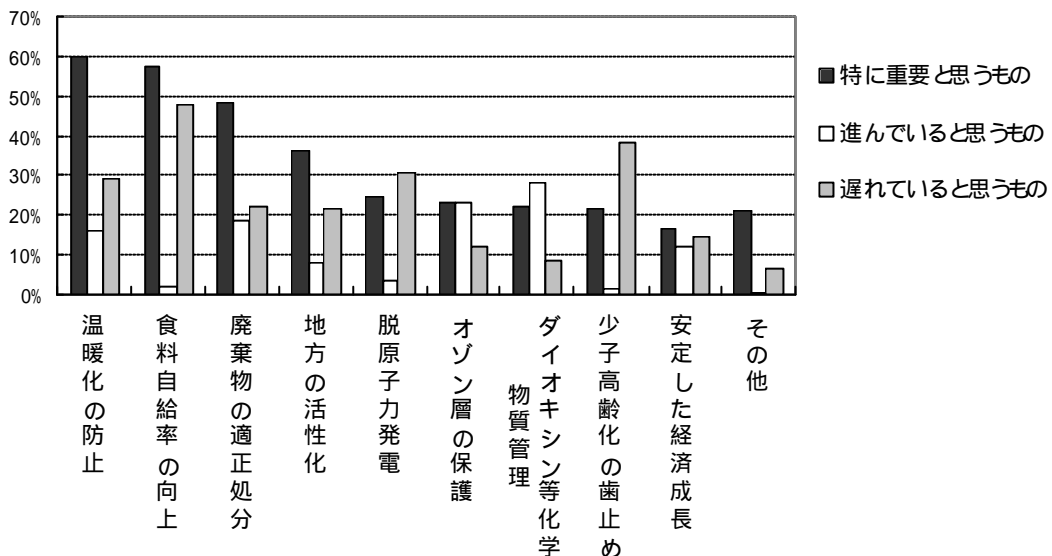
3. 持続可能だと思う国の第一位は「ドイツ」。その理由には廃棄物政策や国民の環境意識の高さが挙げられた。二位の「スウェーデン」は、国の指導力やエネルギー政策が評価されている。先進国ではなく自然豊かな国、自給自足の国を挙げた人もいる。アメリカ、イギリス共に回答はなかった。

Q6 現在世界で、持続可能あるいはそれに近いと思う国はどこですか？ 自由回答（数字は人数）

1位 ドイツ(95) 2位 スウェーデン(42) 3位 デンマーク(28) 4位 北欧諸国(23)
5位 EU諸国(20) 6位 ブータン(6) 7位 シンガポール(5)
8位 オーストラリア、オランダ、キューバ、コスタリカ、フランス、日本(各4)
9位 ルウェー、フィンランド(各3) 上記以外(81) なし(7) 分からない(8) 無回答(97)

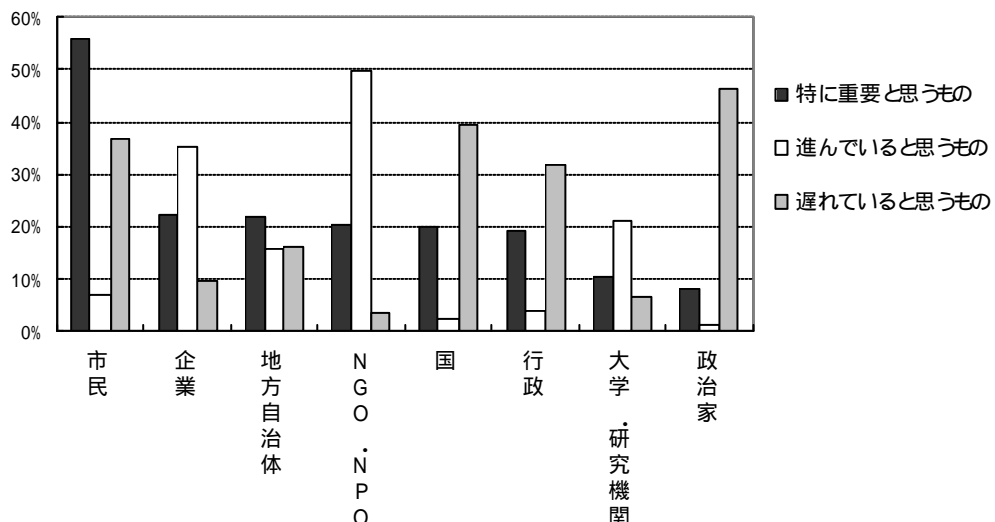
4. 持続可能な日本を創るための重要課題は、「温暖化防止」「食料自給率の向上」「廃棄物の適正処分」であると、それぞれ半数以上の方が回答。食料自給率の向上は、他のどの課題よりも取り組みが遅れていると認識されている。

Q7 持続可能な日本を創るためにあなたが特に重要と思うものを選んでください？ 複数選択



5. 持続可能な日本を創るために重要な主体として、圧倒的に多く挙げたのは「市民」。しかし、その取り組みは遅れていると思う人が4割近くいる。取り組みが進んでいると思うのはNGOや企業、遅れていると思うのは、「政治家」「国」「行政」という結果になった。

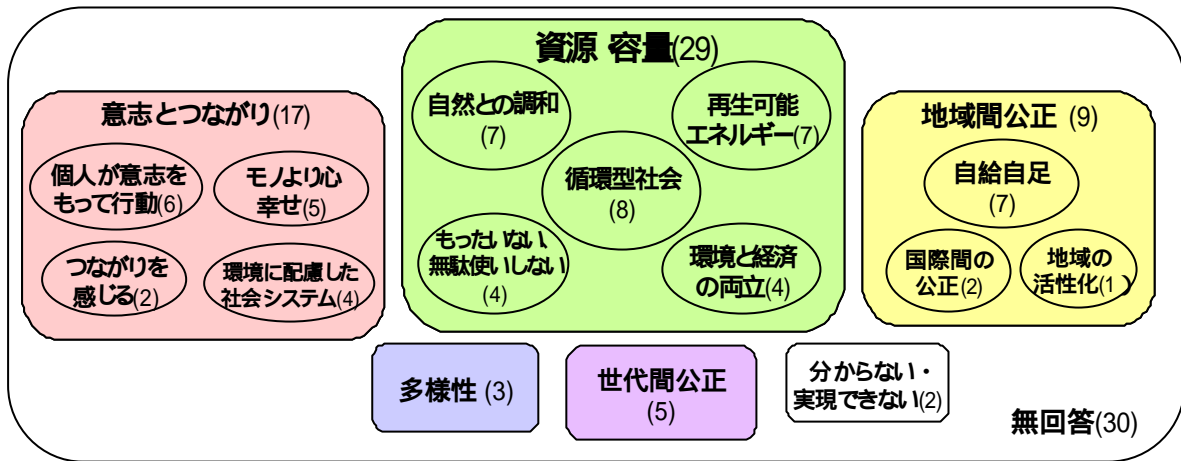
Q9 持続可能な日本を創るために特に重要と思うセクターはどこですか？ 複数選択



6. 持続可能な社会のイメージは、「エネルギーや資源を節約し、自然のシステムに調和した循環型社会」という「資源・容量」の概念で捉えている人が最も多い。注目は、「市民一人一人が環境により行動をとり、さまざまなつながりを感じられる社会」という主体性のある社会をイメージしている人が2番目に多い概念であること。自給自足などを含む地域間公正、世代間公正のほか、少数だが「人と様々な生物が共生する多様な社会」をイメージした人もいた。ただし、1/3の人は回答がなかった。

Q11 あなたがイメージする「持続可能な社会」を記してください

自由回答を分類
数字は回答者の割合(%)



7. 最後に、持続可能な社会を作るために必要なもの、欠けているものを自由記述で尋ねた。どちらの問いも「市民一人一人が意識すること」がトップに挙がった。次いで「教育・情報発信」、「行動力やリーダーシップ」が続く。また、対話を促進し、一人一人の思いを束ね、セクターの垣根を越えてひとつのまとまりをつくっていくことの必要性も指摘された。

Q12 持続可能な日本を創るために、何をすべきだと思いますか？	
一人一人が意識する・考える	12%
一人一人が行動する (できることから 節約、リサイクルなど)	11%
教育・啓蒙・情報発信	10%
再生可能エネルギーの利用	5%
社会システム・政策	3%
国民のまとまり	3%
対話の促進	3%
セクター間の協力	2%
地域の活性化	2%
国家戦略・国際貢献	2%
自然に学ぶ	1%
自給率の向上	1%
その他	4%
分からない・実現できない	1%
無回答	38%

今何がかけているのでしょうか	
一人一人の意識	16%
教育・知識	8%
ビジョン	5%
思いやり	4%
行動力、リーダーシップ	3%
合意形成・対話・まとまり	3%
ゆとり	2%
危機感	2%
自然エネルギーの活用、自給	2%
国や政治の取り組み	1%
地方の活性化	1%
その他	6%
分からない	1%
無回答	48%

自由回答を分類 数字は回答者の割合(%)

本件お問い合わせ先：
ジャパン・フォー・サステナビリティ 事務局
TEL/FAX: 044-933-7639 info@japanfs.org